３．ぶどう

慣行栽培

- 房作りをはじめとした繊細な手作業が中心
- シャインマスカットをはじめとした高単価な生食用果実を生産
- 房作りや収穫期の労働ピークに臨時雇用労働力を活用
- 主な機械設備はスピードスプレーヤー、乗用型草刈機
- 共選出荷

【経営概要】２人、臨時雇用１人

経営面積(ha)	0.8
10a 当たり収量(t)	1.6
単価(円/kg)	1,180
総労働時間(時間)	2,456
１経営体当たり農業所得(万円)	533
１時間当たり農業所得(円)	2,169

多用途栽培モデル

【課題】

- 高度な技術を必要とし、労働集約的な作業が必要
  房作り（摘房、摘粒等）に高度な技術が求められ、労働力の確保が困難
- 労働時間の削減が必要
  収穫等の労働ピークが規模拡大のネック

【対応方策】

- 用途に応じた栽培体系の見直し
  ギフト用、日常消費用、加工用の用途ごとに栽培体系を見直し、価格に見合った作業の効率化を実現
  例えば、日常消費用や加工用については、摘房数の見直しや摘粒作業の省略により、房作りにかかる 10a 当たり労働時間を慣行比7割削減
- 機械化が可能な園地への基盤整備、機械導入
  10a 当たり労働時間を慣行比5割削減

【経営概要】２人、臨時雇用４人
・ギフト用、日常消費用、加工用の用途に応じた栽培
・収穫出荷作業の外注
・加工業者との契約販売

経営面積(ha)	5.0
10a 当たり収量(t)	1.6~4.0
単価(円/kg)	100~1,600
総労働時間(時間)	7,488
１経営体当たり農業所得(万円)	1,703
１時間当たり農業所得(円)	2,274

第５　果実の流通及び加工の合理化に関する基本的な事項

(1)　集出荷・流通対策

目標

農村における人手不足やトラックドライバーの時間外労働の上限規制などによる労働力不足に対応するため、集出荷施設・選果場の再編集約・合理化、果実やコンテナ等の出荷規格の見直し、共同輸送やモーダルシフト等を進める。また、産地から消費者へ生果実の品質を保持して届けることは極めて重要である。このため、切れ目のないコールドチェーンの構築等、高温等の現下の気象状況下においても、鮮度を低下させることなく流通させるためのサプライチェーンの構築を推進する。

【ＫＧＩ】

- 生産面積（再掲）
  194千ha（令和５年度）⇒192千ha（令和12年度）

主要指標（ＫＰＩ）

- ＡＩ選果場
  ３選果場（令和５年度）⇒10選果場（令和12年度）

具体的な施策

①　集出荷の効率化の推進

- 産地の実態を踏まえて、既存施設の役割の見直しに係る協議や修繕・更新に係る計画の策定、その実施体制の構築等を行った上で、地域計画に基づく産地の将来像の実現に向け、老朽化した集出荷施設・選果場等の共同利用施設の再編集約・合理化を促進する。
- 選果能力の向上により、高品質化や、家庭選果の省略等による省力化を可能とするＡＩ選果機の導入を推進する。

②　果実輸送の合理化の推進

- 果実やコンテナ等の出荷規格の見直しを図る取組を推進する。
- 国土交通省等の関係省庁や地方公共団体等とも連携しながら、農産品等のサプライチェーン全体の物流効率化を促進するため、物流の標準化、デジタル化・データ連携等の取組や、産地における集出荷施設の整備や、農産品等の流通網の強化に必要な中継共同物流拠点、卸売市場の整備等を推進する。
- 鉄道・船舶輸送をはじめ、多様な輸送モードを活用して、環境負荷低減にも寄与するモーダルシフト等を推進する。
- 高温等の気象状況下においても、鮮度を低下させることなく流通させるためのスマート技術を活用した流通の効率化・高度化やコールドチェーン確保等による国内外の流通体制の構築等を推進する。

(2)　果実の加工

目標

国産果実の加工仕向けについては、生果実の選果の過程で規格外となったものの一部が流通している状況であり、果実生産量の減少に伴い加工仕向量が減少している中、規格外の果実を加工用に回すだけでなく、契約生産など価格を決めて量をある程度加工に回すことが出来るような生産を進める。また、地域の基幹産品となる果実加工品の創出など、付加価値の高い加工仕向けの取組を推進する。

【ＫＧＩ】

- 加工仕向量（再掲）
  314千トン（令和３年度）⇒377千トン（令和12年度）

主要指標（ＫＰＩ）

- 加工原材料果実の生産に取り組む経営体・産地（再掲）
  令和12年度までに10経営体・産地を創出